

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 11 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2013

課題番号：21531033

研究課題名(和文) 子どもの成長・発達に即した縦断型特別支援教育ネットワークシステムの構築

研究課題名(英文) test

研究代表者

緒方 茂樹(OGATA, Shigeki)

琉球大学・教育学部・教授

研究者番号：30261184

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではまず、沖縄県教育委員会と連携してえいぶるノートの試作を行った。さらに、宮古圏域における「縦断型ネットワークシステム」への拡充を目指して、定期的な教育相談会と巡回による学校支援・保育所支援を進めた。一方で宮古島における地元の専門家庭教育を行った。2010年には宮古島市の予算で発達障害児(者)支援室「ゆい」が設置され、先の心理士が専門相談員として採用されたことで、外部からの支援に頼ることなく現地リソースによる支援体制が構築できた。いわゆる「入口」の充実に目的として、児童家庭課と連携した保育所支援を行ったことで支援対象児の早期発見・早期対応が可能となった。

研究成果の概要(英文)：We engaged in construction of network systems for child's development in special support education in Miyakojima-City. Our mainly approach for this study are these 3 points. 1) Construction of the network systems in Miyakojima-City by rounds regularly consulting support for nursery and school for 4 years. 2) Trial use with "EIBURU" cooperate with parents and related resources. 3) Nurture human resources for local young psychologist and nursery school teachers by training for special support education. Miyakojima-City established independent consulting support center with name "YUI" in 2010. "YUI" employ this local psychologist as specialty consulting staff. These approaches connected with construction full of temporal and spatial network systems in Miyakojima-City.

研究分野：教育

科研費の分科・細目：特別支援教育

キーワード：島嶼地域 特別支援教育 ネットワークシステム 個人シート 離島 ライフサイクル

1. 研究開始当初の背景

平成16年から平成19年まで、科学研究費に基づき、特に宮古島をフィールドとしながら教育分野内の特別支援教育ネットワークを整備し、さらに医療・福祉・保健・労働分野における関係諸機関との「横断型ネットワークシステム(空間的な連携)」の構築を図ってきている。具体的には、毎月宮古島を訪ね、特別支援教育に関わる相談事業や学校支援を定期的に展開してきた。それらの取り組みを通じて、平成19年5月に琉球大学教育学部と宮古島市教育委員会において、「学生・教員の資質向上を図るための連携・協力に関する協定書」が締結された。両者の連携は研究室のレベルを超えて今や公的なものとなっている。

一方、沖縄県広域特別支援連携協議会では、平成20年度に宮古島市を「個人シート運用のグランドモデル地域」として指定し、琉球大学と連携しながら「えいぶるノート」の試作、現実的な運用の方法論を探ることとした。このことから、本研究によって得られた成果は沖縄県広域特別支援連携協議会を通じて広く沖縄県内にフィードバックが可能である。本研究を遂行することで、将来的には全県を視野に入れた実的な運用が期待できる。

2. 研究の目的

本研究では沖縄県のもつ特異的な地域性である「島嶼地域」の特性を活かした特別支援教育ネットワークシステムの構築を目指す。これまでの宮古島市における実績を基に、さらに大学、教育事務所、教育委員会、各学校と宮古福祉保健所、宮古病院、宮古ハローワーク、地域支援コーディネーター等の関係

者がお互いに協力しながら、子どもの成長・発達に即した時間軸に沿った継続的な連携システム、いわば「縦断型ネットワークシステム(時間的な連携)」に拡充することを目的とする。

3. 研究の方法

具体的には以下の三つの大きな柱を考えている。すなわち、第一に「えいぶるノートの作成と試用」、第二に「巡回学校・園支援の充実」、第三に「宮古における人的リソースの育成」である。まず支援システム構築のためのツール「個人シート(以下:えいぶるノート)」の試作を行う。このノートは保護者が管理することを原則とし、ライフサイクルに応じた子どもに関する、教育、療育、あるいは医学的な診断などの各種情報を関係諸機関がそれぞれの立場で記載するものである。本研究ではまず、宮古圏域における「縦断型ネットワークシステム」への拡充を目指して、これまで継続してきた巡回支援等において、この「えいぶるノート」をツールとして試用しながら、子どものライフサイクルに応じた特別支援教育や具体的な支援の在り方について探る。さらに宮古島における地元の専門家育成を目指して、巡回支援に宮古のスタッフを帯同させる。このことで臨床経験蓄積を促し、さらに内地の研修会参加等の旅費を支援することで専門性を向上させる。また、いわゆる「入口」の充実を目指して、宮古島市福祉保健部児童家庭課と連携をとり、保育士の研修会を継続的に行い、スキルアップを図る。

4. 研究成果

(1) 宮古島市におけるネットワークシステム構築

これまで宮古島市で行ってきた「横断型ネットワークシステム」のさらなる充実を図るために、定期的な教育相談会と巡回による学校支援・保育所支援を進めた。巡回支援には宮古島市の心理士も帯同させることで、臨床経験を蓄積させた。2010年には宮古島市の予算で発達障害児(者)支援室「ゆい」が設置され、先の心理士が専門相談員として採用された。設置初年度はこれまでの巡回支援を「ゆい」の業務と連携させながら引き継いだことで、次年度以降は大学からの支援に頼ることなく現地リソースによる支援体制が構築できた。本研究の一環として行った保育所、幼稚園、学校に対する定期的な支援を基盤としながら、上述した支援室の設置も相まって、保育所、幼稚園から学校への移行支援、すなわち「縦断型ネットワークシステム」の充実もまた図ることができた。この宮古島において構築された支援体制は本研究で目指す「横断的・縦断的ネットワークシステム」を具現化したものとなったと考えている。

(2)「えいぶるノート」の活用

「えいぶるノート」について、最初の段階で保護者及び関係者とも協力しながら形式・内容の吟味と運用上の課題を探り、実際的な運用と内容についての修正を行った。特別支援学校などで保護者の了解を得たケースについては、実際的な利用を行うことができた。一方で「えいぶるノート」の普及については、障害者手帳の取得と同様の理由で保護者に勧めることが困難なケースも少なくなかった。保護者の障害受容の問題も含めて、その普及についてはさらに格段の工夫が必要である。本研究の一環として沖縄県教育委員会が進める「えいぶるノート」の電子版作成に

も積極的に関わり、iPad、iPhoneで利用可能なアプリケーション開発に携わった。現在は、引き続き県教育委員会と連携して「えいぶるノート」の全県的な普及に努めているところである。

(3) 島嶼地域における人材育成

宮古島市は島嶼地域であることから研修機会が少ないことが大きな課題であった。そこで本研究の一環として宮古島市の人的リソースの育成を位置づけることとした。例えば、巡回支援には宮古島市の心理士も帯同させることで臨床経験を蓄積させ、さらに沖縄本島のみならず本土の研修会参加にも費用を負担して参加させた。上述したように、その後市に設置された発達障害児(者)支援室「ゆい」にこの心理士が専門相談員として採用されたことで、宮古島以外のリソースに頼らない、現地リソースによる支援体制が構築できた。また、児童家庭課と連携した保育所支援については特筆すべきものがあつた。すなわち、保育士のスキルアップ研修をきめ細やかに行うことで支援対象児の早期発見・早期対応が可能となり、先の「ゆい」を中心とした支援ネットワークへの繋ぎもスムーズに進められるようになった。この保育士のスキルアップと関係諸機関の連携に関わる成果と課題については2012年に鳥取で開催された全国保育士研究大会において報告され、全国の関係者から大きな評価を受けている。

(4) 本研究の課題

本研究では「えいぶるノート」をツールとして試用しながら吟味・修正を加え、最終的

には子どものライフサイクルを考慮して「入口」、「在学」、「出口」の時期を有機的に繋げることのできる「とぎれない継続した支援」ができるネットワークシステムの構築を図ろうとするものであった。本研究の遂行によって、「入口」、「在学」中に関しては十分に対応ができたと考えている。「出口」に関しては、高等学校における個別の支援計画、移行支援計画の充実と「えいぶるノート」との整合性や役割分担については、宮古特別支援学校あるいは高等学校の進路指導部との連携を図りながら研究を進めていく予定であった。しかし高等学校からの支援依頼が予想以上に少なく、さらにハローワーク宮古においても発達障害者からの求人依頼が極めて少なかったことから、詳細な実態把握には至らなかった。現段階においても「出口」への繋ぎに関しては、多くの課題を残しているといわざるを得ない。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

1. 緒方茂樹、端慶覧定代、砂川ルミ子、与那覇聡美、大城由美子

宮古島市における保育士の資質向上に向けた取り組み

-外部システムとしての大学と境界関係システムとしての児童家庭課の機能-

琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要(査読無)第4号 2012 1-13頁

2. 城間園子、緒方茂樹

特別支援教育における「とぎれない支援システム」の構築

-関係諸機関における情報交換ツール「えいぶる」の作成-

琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要(査読無)第2号 2010 1-12頁

3. 清水祐子、緒方茂樹

特別支援教育における相談支援体制に関する

方法論的研究

-サポートノート「えいぶる」の試用を通して-

琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要(査読無)第2号 2010 13-24頁

3. 緒方茂樹、端慶覧定代、砂川ルミ子、与那覇聡美、大城由美子

宮古島市における保育士の資質向上に向けた取り組み

-外部システムとしての大学と境界関係システムとしての児童家庭課の機能-

琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要(査読無)第4号 2012 1-13頁

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
研究代表者
緒方茂樹(Shigeki OGATA)
琉球大学教育学部 教授
研究者番号：30261184